



緑地新聞

松本日向緑地プログラムの活動紹介
〜溢れる緑からあまねく緑を〜



目次

- 3P 地域ボランティアプログラム「松木日向緑地プログラム」とは
- 4P これまでの道のり
- 5P 『緑地新聞・1号』: 自主企画 「七夕～君の願いは。～」 「竹スポ2018」
- 6P 『緑地新聞・2号』: 自主企画 「サル山水合戦」
- 7P 『緑地新聞・3号』: 竹林整備
- 8P 『緑地新聞・4号』: 地域交流 「花炭づくり・木工工作」
- 9P 『緑地新聞・5号』: 竹林整備
- 10P 『緑地新聞・6号』: 里山保全ボランティア体験会①
- 11P 『緑地新聞・7号』: 竹林整備
- 12P 『緑地新聞・8号』: 竹林整備・事後学習
- 13P 『緑地新聞・9号』: 里山保全ボランティア体験会②
- 14P 緑地談話 ～緑から縁を、編～
- 15P 松木日向緑地プログラムのおすすめポイント
- 16P 後書き



はじめに

皆さんは松木日向緑地をご存知でしょうか？大学の奥地に広がる、美しい自然・多様な生態系がひろがる素晴らしい場所です。その場所で、僕たち、地域ボランティアプログラム「松木日向緑地ボランティアプログラム」のメンバーは、夏の終わりごろから、春先にかけて竹林整備や地域交流等の活動を行っています。

しかしながら、大学内において、松木日向緑地や、この場所で行われている様々なボランティア活動に対する認知度の低さに、これまで3年間活動をしている中で、ふと気づき、何か策はないかと考えました。

そこで、「松木日向緑地やボランティアプログラムでの取組をもっと首都大生に知ってもらいたい！」という思いから企画したものが、『緑地新聞』です。記事は、プログラムのメンバーが各号で役割を分担し、執筆・編集を担当しました。

本冊子は、2018年度に発行した『緑地新聞』をまとめたものです。本冊子をきっかけに、少しでも多くの人に松木日向緑地や僕たちの取組への興味をもっていただけたら嬉しいです。

松木日向緑地MAP



出典：首都大学東京・東京都立大学 ひなたブック製作委員会『ひなたブック』，2007

地域ボランティアプログラム「松木日向緑地プログラム」とは

首都大学東京南大沢キャンパスの奥地に存在する松木日向緑地で、毎年9月から、月に1回程度、社会課題(右記参照)の解決を目的に、学生主体で竹林整備の活動や伐採した竹を利活用した近隣地域の方々との多世代交流活動を行っています。

ボランティアプログラムは、ボランティア活動の意義や社会課題、その背景を学ぶ「事前学習」や自分たちの活動を多角的に振り返る「事後学習」等の学習と、竹林整備等の活動が連動した内容・構成になっています。

社会的課題

- ・環境: 里山荒廃による生態系への悪影響
- ・文化: 自然利用の技術・文化の伝承断絶
- ・地域: 少子高齢化に伴う世代間交流やコミュニティの希薄化
- ・大学: 豊かな緑地資源への認知度の低さ



事前学習

そもそもボランティア活動をする意義とは？
緑地や地域にはどんな社会課題があるのか？
といった活動の背景や竹の伐採方法等を、
事前に学び、1年間における活動の目標を立てます。



通常活動

竹林整備の他、伐採した竹の一部を
工作や水鉄砲合戦等、多世代交流
活動の資源として利活用します。



事後学習

メンバー間の多角的な視点で活動の振り返りをし、事前学習で立てた目標の達成にどれだけ近づけたのか、また、1年間の活動によって緑地や地域にどのような効果がもたらされたのかについて話し合います。

緑(環境保全) → 縁(地域交流)

松木日向緑地プログラム



これまでの

はじまりは...

道

の

り

松木日向緑地の課題
「緑地の荒廃」

大学周辺地域の課題
「多世代交流の減少」

多世代間の交流の
場所として、
緑地を利用しよう！

活 動

普段は竹の間伐作業を行いつつ、
「サル山水合戦」や「体験会」などの
地域交流イベントを企画しました。



環境保全

竹林の整備によって、以前より
陽の光が入るようになりました。
また、伐採した竹を資源として、
多世代交流活動に利活用しました。

成

果

人との繋がり

大学生がつなぎ役となり
子どもから大人まで幅広い
世代交流ができました。



これからも松木日向緑地を利用した
豊かなコミュニティの形成を目指します

緑地新聞 ①

2018年10月

松木日向緑地プログラムとは

首都大学東京の奥地に存在する松木日向緑地で毎年、九月から、月に一度程度、学生主体で竹林整備の活動を行っています。また、伐採した竹は活用して、地域の交流等へと役立てています。プログラムの中には、ボランティアの意義・社会の課題や背景を学ぶ事前学習・活動を多角的に振り返る事後学習があり、通常活動である、竹林整備と連動した内容・構成になっています。

←緑地・ボランティアとは？

←通常活動 く緑から緑をく

←活動の学びを共有



2つの新企画、サマボラにて

「ボランティア団体フェア『サマボラ2018!』」が七月一・二日、南大沢キャンパスのインフォメーションギャラリーにて行われました。スポーツボランティアプログラムメンバーによる「ボッチャ体験会」・「ゆるスポーツ」や学生コーディネーターによる「オリンピッククイズ」等の多様な学生企画の一つとして、松木日向緑地プログラムのリーダー・サポーターらは、緑地で伐採した竹を使い、「学生に願い事を書いてもらう」という特別企画「七夕、君の願いは。」

を実施。多くの学生がそれぞれの願い事を竹へ括り付けていました。

←緑地の竹に願いを括り付ける参加者



←準備に余念がない企画者



同日昼休みに、七号館入り口付近で、竹水鉄砲を用いた的当てゲーム「竹スポ!

2018」を行いました。初めて竹水鉄砲に触れる人が多かった一方、地元で昔、遊んだことのある人もいて、「懐かしい気持ちになれた」という声がありました。

願い事を括り付けてもらうことで、また、竹水鉄砲遊びを通じて、少しでも多くの方々に緑地のことを伝えられたのではないかと思います。なお、二日間で、両特別企画合わせて七〇名ほどの学生が参加をしました。

←ゲームのルールや緑地の説明



←満点を出せたのは二人だけでした…



編集後記 (リーダー・法学系・三年)

緑地の写真を載せるようになってから、いいね!の数が二割増しになりました。大学の緑地で「あなただけのSNS映えポイント」を是非見つけてみてください!



編集・発行 首都大学東京ボランティアセンター (南大沢キャンパス 一号館一階)

電話 042-677-1354 メール tmv-volunteer@injimu.ac.jp

文章担当

地域ボランティアプログラム ① 松木日向緑地プログラム メンバー

緑地新聞

②

2018年11月発行

松木日向緑地 プログラムとは

首都大学東京の奥地に存在する松木日向緑地で毎年、九月から、月に一度程度、学生主体で竹林整備の活動を行っています。また、伐採した竹を利活用して、地域の交流等へと役立てています。プログラムの中には、ボランティアの意義・社会の課題や背景を学ぶ事前学習・活動

を多角的に振り返る事後学習があり、通常活動である、竹林整備と連動した内容・構成になっています。

▼竹を伐採



～緑から縁を～



▲地域交流

▼事前学習



▲事後学習

サル山水合戦開催

松木日向緑地の竹で水鉄砲づくり&水合戦
3小学校から小学生・保護者約60名参加

「サル山水合戦」は竹の利活用と地域交流の充実を目的に本プログラムメンバーで企画し、九月八日(土)に開催しました。内容は地域の小学生を対象とした、竹製水鉄砲の制作体験とその水鉄砲を用いた陣地取りゲームです。ゲームには小学生に交じって大学生も参加。自然の中での「遊び」を体験してもらおうと同時に、世代を超えた楽しい交流を実現できました。

サル山水合戦を終えて

企画者代表より

準備日には、水鉄砲に使う材料の竹を取ってきたり、小学生でも水鉄砲が作れるように加工を行ったりしました。今年から本活動に参加したメンバーの中には、今回が竹とのファーストコンタクトだったという人もいました。難なく竹を伐採することができました。加工の際、自然の竹なので、中には歪んでいるものがあつたり、大きさがバラバラでうまく組み合わせられなかったりと、一筋縄ではいきませんでした。しかし、連携団体のひなた緑地遊学会の方やプログラムメンバーと協力して、一日中作業をしてなんとか準備を終えることができました。当日は、三つの小学校から約



▲難なく竹を伐採



▲みんなで協力して準備

六十名の小学生・保護者の方に来ていただきました。企画した私たちも自分たちの手で水鉄砲を作るのは新鮮な体験で、それから発射される美しい水の放物線は私たちが感動させました。また、里山保全のために伐採した竹がこのような形で利活用され、子どもたちと一緒に楽しむことが出来たのはとても有意義であつたと感じました。子どもたちのためにも思つて行つた今回の企画ですが、実は我々大学生や大人たちにも気づきを与えてくれた、ハッピーな活動でした。これからも活動に関わる全員が楽しいと思えるような活動ができるよう頑張りたいと思います。



▲試合前の円陣



▲大学生も保護者も本気で遊ぶ様子

編集後記 (理工学系・四年)

リアル陣取りゲーム、かなり盛り上がりましたね。参加してくれた小学生や我々大学生に負けず、真剣にゲームに参加していただいた保護者の方々、とても印象的でした。多世代と一緒に、なつて盛り上がりながら遊ぶ、そんな素敵な時間を過ごせました。

編集・発行

首都大学東京ボランティアセンター (南大沢キャンパス 一号館一階)
電話 042-677-1354 メール tmv-volunteer@jim.tmu.ac.jp

文章担当

地域ボランティアプログラム①「松木日向緑地プログラム」メンバー

緑地新聞

3

2018年12月発行

何故、私達は竹を切るのか

十月六日(土)、本プログラムから十五名の大学生が参加し、竹林整備活動を行いました。今回の活動内容は、竹を切り緑地内の整備をすること・切った竹を竹炭として再利用する為の準備を行うことです。

朝九時半に十三号館前に集合。着いた直後から、竹の肥料である落葉が入った袋を竹林に運びました。落葉が入った五〇近くの袋は、先日の雨で水分を含んでいて作業はかなり大変でした。銀杏が入った袋の周りはGを筆頭にムカデ、コオロギと緑地の虫達でいっぱいでした。

その後、竹のあるエリアへ行って竹を伐採。一人一〜二本を目安に竹を切りました！竹を切



る際には、地面に対して水平に切れ込みを入れたり、刃先が竹に噛まないようにしたりする等、とても集中力を使う大変な作業でしたが、その分、高めの竹を自分で倒せた時には、大きな達成感を感じることができました。切った竹は作業場まで運び出します。竹を適当な長さに切り、四つ割りに。そして、かまどに詰めていきます！かまどは思ったよりも大きく、割った竹をぎっしり詰めていくのはなかなか大変でした。



▲4つ割り体験。注目の的に

活動を通して、竹林整備の意義を自分なりに以下の二点にまとめました。一つ目は、竹の侵略を防ぐことです。竹は、毎年3m程、地下茎を伸ばし、そこからタケノコを生やします。雑木林の中では、どんどん地下茎が伸びていき、陣地を拡大していきます。さらに、タケノコはわずか二、三年で十数m、元気な場合二十数mまで育ちます。最終的に竹は、他の樹木から光を奪って雑木林を乗っ取ってしまうのです。

二つ目は崖崩れを防ぐことです。様々な種類の樹種が混ざり合う雑木林では、深くまっすぐに根を伸ばして「杭」の役割を果たす木と、横に根を張り、土を抑える「ネット」の役割を果たす木が協力しあって、崖崩れを防いでいます。



▲この経験は11月の活動へ繋がります

しかし、竹の地下茎は、横に広がるので、土を押さえるネットの働きには優れています。が、「杭」の役割がありません。そのため、当然、大雨等の際には地面がずり落ちる危険性が高く、松木日向緑地にもあるような急斜面では、特にその危険性が高くなるわけなのです！

こうして当日の活動やひなた緑地遊学会の方々のお話や活動を通して、自分達が行うボランティア活動の意義を改めて確認することができました。さらに、竹の根本にアリの大群がいるのを見て、竹林の生態系についてもさらに学びたいと感じました。

環境保全に取り組めたことへの達成感を強く感じられた一日でした。

参考 『竹林問題 森づくり最前線 天然水野盛 サントリー』
URL https://mobile.suntory.co.jp/seo/forest/protect/problem.html?transfer=pc_to_mobile (最終アクセス: 二〇一八年十一月十六日)

松木日向緑地プログラムとは

首都大学東京の奥地に存在する松木日向緑地で毎年九月から、月に一度程度、社会課題(下記参照)の解決を目的に学生主体で竹林整備の活動を行っています。さらに、伐採した竹(緑)を、利活用し、近隣地域の方々との交流(縁)等へと役立てています。

プログラムの中には、ボランティア活動の意義や社会の課題、背景を学ぶ事前学習と活動を多角的に振り返る事後学習があり、通常活動である竹林整備と連動した内容・構成になっています。

社会的課題

- 環境: 里山荒廃による生態系への悪影響
- 文化: 自然利用の技術・文化伝承の断絶
- 地域: 少子高齢化に伴う世代間交流やコミュニティの希薄化
- 大学: 豊かな緑地資源に対する認知度の低さ

12月は緑地に入ろう！

ボランティアセンターイベント



あなたがまだ知らない首都大の自然の美しさや素晴らしさを一緒に写真に収めてみませんか？

撮影・自然巡りが好きな方は是非ご参加ください♪

竹林伐採体験を実施します！

12/16 (日)
9:30-14:00

その他、工作や竹割体験なども予定！初心者の人にもわかりやすく教えます。

竹を切って、2018年を納めてみませんか？



竹を倒せずに、年は越せない！

編集発行 首都大学東京ボランティアセンター (南大沢キャンパス 一号館一階)
電話 〇四二-六七七-二三五四 メール tmu-volunteer@mjimu.ac.jp
地域ボランティアプログラム①「松木日向緑地プログラム」メンバー 生命科学二年・T
文章担当

緑地新聞

4

2018年12月発行

作ろう緑から、繋げた縁はこれからも



地域交流・木工体験会を実施

Feel green nature,
Make green culture.

十一月十一日(日)、竹の活用による地域交流を目的とした、近隣小学生・保護者との竹炭づくり・木工体験活動を行いました。

まずは、竹炭と花炭作りです。竹炭作りでは、ドラム缶炭焼き窯の火付け体験を行いました。煙突から煙がたくさん出るまで、杉の葉や新聞紙、竹を窯の中に入れてうちわで扇ぎます。子ども達は、煙を浴びて涙が止まらなくなりましたが、負けずに頑張っていました。次は、焼き芋作りです。さつまいもを洗い、新聞紙とアルミホイルで包み、炭焼き窯の上にかぶせてある砂の中と花炭作りで使用した窯の中に入れて待ちます。

花炭や焼き芋が完成するまでは、各々が「竹の伐採」や「工作」等から、好きな体験メニューを選んで参加しました。「工作」では、伐採した竹を使ったペン立てや緑地内で集めたツルを使ったリース、風で折れた木の枝を使ったキーホルダーの作成等、体験メニューは盛り沢山。リースの材料となるツルを集めたり、長い枝をのこぎりで切って、丁度良い長さにしたりするのは、参加した子ども達自身で行いました。竹を切る、枝に穴を空けるなど、小学生の力では足りないところは、我々大学生のメンバーがサポートし、自然の中での作業と一緒に楽しみました。

お昼頃、窯から甘い香りがしてきたところで、焼き芋の仕上げを確認しました。握ってみて柔らかければできあがりです。我々も一緒に焼き芋をいただきました。ほくほくで甘くておいしかったです。さらに、保護者の方々が豚汁を作ってくださいました！首都大産のしいたけや、ひなた緑地遊学会の方が栽培した里芋も入っており絶品でした。自然の中で活動した後には食べることで、より一層おいしく



▲焼き上がりを一緒に♪



▲クリスマスに向けて、リースを



▲多世代に渡って交流できました

参加学生にLINEしてみた。

松木日向緑地プログラムメンバー(20)

今月も活動お疲れ様でした！ここ2ヶ月の活動で感じたこと等、コメントをお願いします！

既読19



T

10月の文章を担当しました。生命科学2年のTです。竹を切る作業では、刃先を水平にする等、多くの集中力を要しましたが、その分高い竹を倒せた時、大きな達成感を感じられました！

12:08



N

11月の新聞を担当しました。人文社会1年のNです。炭焼き窯の火付けや花炭の作り方などの知識を得たのと同時に、子ども達の豊かな発想力に驚かされ、笑った有意義な活動でした！

12:16

コメントありがとうございます！来年も頑張っていきたいと思います！(^^)b

既読19

松木日向緑地プログラムとは

首都大学東京の奥地に存在する松木日向緑地で毎年九月から、月に一度程度、社会課題(下記参照)の解決を目的に学生主体で竹林整備の活動を行っています。さらに、伐採した竹(縁)を、活用し、近隣地域の方々と交流(縁)等へと役立てています。プログラムの中には、ボランティア活



解決すべき社会的課題

- ・環境：里山の荒廃による生態系への悪影響
- ・文化：自然利用の技術・文化の伝承断絶
- ・地域：少子高齢化に伴う世代間交流やコミュニティの希薄化
- ・大学：豊かな緑地資源への認知度の低さ

編集後記

豊かな自然に囲まれ、心豊かになれるこの場所が紡がれていく幾つもの地域との繋がりが、これからも大切にしていきたいです。
リーダー：法学系・三年・

緑地川柳

緑から
育む縁の
実り時

編集発行
文章担当

首都大学東京ボランティアセンター (南大沢キャンパス 一号館一階)
電話 〇四二-六七七-二三五四 メール tnu-volunteer@njnu.ac.jp
地域ボランティアプログラム①「松木日向緑地プログラム」メンバー 人間社会学科一年・N

緑地新聞

5

2019年1月発行

落ち葉から循環させる



十二月一日(土)、本プログラムから八名の大学生が参加し、竹林整備活動を行いました。今回の活動内容は、松木日向緑地の竹林整備をするこ

と・以前作った竹炭を用いたBBQを通して親睦を深めることでした。朝の九時半に十三号館の前に集合し、準備体操をすることから今回の活動が始まりました。その後すぐに加藤先生(本学理学部生命科学科)から、竹の性質や加藤先生が緑地内で行っている研究の内容等について、お話がありました。加藤先生が整備しているエリアと、あえて手を加えていないエリアとでは、入ってくる光の量が異なっており、竹を切ることの重要性を実感させられました。あえて手を加えていないエリアでは、竹以外の植物が減少したり、人間が入っていけないような状態であったりする等、この活動がなければ本学の

自然環境課題が深刻化してしまうのではないかとという危機感を抱きました。

次に、落ち葉を撒く作業を行いました。緑地内に落ち葉という布団をかけることで地面に栄養が行き渡り、来年美味しい筍が生えてくるようになります。地面一面が黄色や紅色になり、とても綺麗でした。一部落ち葉を大盛りにした場所があり、来春そこがどうなっているのかについても今後観察していきます。学内で出た落ち葉を業者に委託しゴミとして処理するのではなく、学内で消費することは、緑地の再利用のサイクル形成において大切な作業です。

その後は、いつも通り竹のあるエリアに行って竹の間伐作業を行いました。一人一三本程度の竹を切りました。久しぶりの作業であったためメンバーからは、切り方を掴むのが大変だったという感想が上がりました。一人で大きな竹を切るのは体力を使います。自分の切り倒した竹で誰かが怪我をしないように、切り始めと倒す際の掛け声を忘れないように心がけました。切り倒した竹は適当な長さに切って枝を落とします。



緑地に来た人がつまづかないために最後までしっかりと竹の処理をしました。

今回の活動の最後には、自分たちでかまどに詰めて作った竹炭を用いてBBQを行いました。プログラムメンバーと一緒に肉を焼いたり、焼きそばを作ったりする時間は楽しくあつという間で、親睦が深まりました。年齢も学部もバラバラで、ひなた緑地遊学会の方とは、ボランティア活動をしていたり知らず知らず合わなかったかもしれない。そのような方たちとお話をするのは貴重で、緑地での活動を通じて人と人との繋がりが出来たことに幸せを感じました。竹にパン生地を巻きつけてパンを焼いたり、学内で採集したキノコを焼いて食べたり、このプログラムならではのBBQになって有意義な時間となりました。

今回の活動を通じて、竹を切って自分たちがその土地をどうしたいのかについて少し考えるようになり、竹を切るといふ作業だけでなく、増えすぎて人の手が入らない竹林を見て、切った後にそれをどう活用するかも考えていくことも必要だと感じました。環境保全に取り組みたとともに、人と人との繋がりを強く感じられた一日でした。



松木日向緑地プログラムとは

首都大学東京の奥地に存在する松木日向緑地で毎年九月から、月に一度程度、社会課題(下記参照)の解決を目的に学生主体で竹林整備の活動を行っています。さらに、伐採した竹を、活用し、近隣地域の方々との交流等へと役立てています。

プログラムの中には、ボランティア活動の意義や社会の課題、背景を学ぶ事前学習と活動を多角的に振り返る事後学習があり、通常活動である竹林整備と連動した内容・構成になっています。

社会的課題

- 環境：里山荒廃による生態系への悪影響
- 文化：自然利用の技術・文化伝承の断絶
- 地域：少子高齢化に伴う世代間交流やコミュニティの希薄化
- 大学：豊かな緑地資源に対する認知度の低さ

緑地川柳

緑から
つながりつくる
ボランティア

編集後記(物理・2年 shikawa)
今回の活動では、加藤先生が来てくださったということもあり、今までで一番学びが多かった活動だったなと感じました。大学にある緑地だからこの活動をこれからも充実させていきたいなと思いました。

編集発行
文章担当

首都大学東京ボランティアセンター (南大沢キャンパス 一号館一階)
電話 〇四二一六七七・二三五四 メール tmu-volunteer@tmu.ac.jp
地域ボランティアプログラム①「松木日向緑地プログラム」メンバー 法学部一年・〇

緑地新聞

6

2019年2月発行

匠の技は時を越えて



首都大で竹を切ろう！ ～近隣の中学生4名参加～

実際に竹を伐採してみると皆、簡単に竹を倒していました。大学生がサポートしながらの作業でしたが、要領を掴むのが早く、ノコギリの扱いも、とても上手でした。

休憩時間には、「学校の授業では何の科目が好きなのか」「サンタさんはやってくるのか」等の話をしました。その後、再び作業に戻り、各々一本以上の竹を切りました。最終的には、なんと、竹を五本も切った子がいました。緑地には以前と比べ、日の光がたくさん入るようになりました。竹林が拡大した影響で、枯れかけていた緑地の木々にとつて、中学生たちはきつと救世主でしょう。

お昼には、みんなでテーブルを囲んで昼食を食べました。談笑したり、「幸運の一〇ペコちゃん」を探したりして、楽しい時間を過ごしました。

午後は、「切った竹の活用方法」を中学生のみんなに考えてもらいました。中学生の発想は面白く、私たち大学生には思いつかなかったものを作りました。ネームプレートと楽器のギロです。ネームプレートの名前をハンゲル文字で書くという子もいました。ギロは、音がすごく良く再現されていました。大学生も自由にすだれや椅子等を作りました。自分達で考えながら、竹で何かを作るといふ時間は純粋に楽しかったです。



↑ 仕事をサポートする大学生メンバー

十二月十六日(日)、里山保全ボランティアの体験会を行いました！目的は環境保全活動の意義について、プログラム外部の人に考えてもらうきっかけを作るということです。中学生と大学生という普段、なかなか交流のない組み合わせで、最初は互いに距離感が分からず少し緊張気味でしたが、活動が始まると、だんだんと打ち解けていきました。

最初に行ったのは、竹の伐採作業です。竹を切る前には、大学生が里山保全活動の意義や背景、その方法について説明をしました。デモンストレーションで竹が倒されるのを目にした中学生たちは、少し怖がり、不安そうにしていますが、

松木日向緑地プログラムとは？

首都大学東京の奥地に存在する松木日向緑地で毎年、九月から、月に一度程度、下記の社会課題の解決を目的に学生主体で竹林整備の活動を行っています。

また、伐採した竹を活用して、近隣地域の方々との交流等へと役立てています。プログラムの中には、ボランティアの意義・社会の課題や背景を学ぶ事前学習・活動を多角的に振り返る事後学習があり、通常活動である、竹林整備と連動した内容・構成になっています。

社会的課題

- 環境：里山 荒廃による生態系への悪影響
- 文化：自然利用の技術・文化の伝承断絶
- 地域：少子高齢化に伴う世代間交流やコミュニティーの希薄化
- 大学：豊かな緑地資源への認知度の低さ

参加学生に質問してみた。

Q. プログラムに参加した理由は？

- A. 元々、ボランティア活動に興味があり、かつ、自分の専攻分野に松木日向緑地の活動が密接に関連していたから。
1年・観光・F
- A. 自然が好きで活動にとっても興味があったから。活動を通じて大学や地域のことをもっと知っていききたい。
1年・インダストリアート・M
- A. 図工の時間が昔から好きで、活動の中で色々な道具を扱えるのではないかと思ったから。また、キャンプなどに行くことが多く、自然と触れ合うことに親しみがあり、その中で子どもたちと関われるこの活動に魅力を感じたから。
1年・人文社会・N
- A. 大学内の美しい自然の中に入りたいと以前から考えていた。来年からは学部の関係で荒川キャンパスに移ってしまうので、今年度の活動を通じて、南大沢キャンパスを楽しみ尽くしたい。
1年・作業療法・M

緑地川柳

竹の音と

共に感じる

日向色



執筆後記 観光・一年生
今回の活動を通して、私たち大学生がいい刺激をもらいました。今回参加してくれた中学生の皆さんに、少しでも楽しいと感じてもらえたのなら、とても嬉しいです！

編集後記 法学・三年生 N
勉強や発表で荒んでいた自分の心が中学生たちの笑顔で洗われるのを感じました。竹で楽器を作るといふアイデアは今後の参考にしていきたいです。

編集発行
文章担当

首都大学東京ボランティアセンター (南大沢キャンパス 一号館一階)
電話 〇四二一六七七・二三五四 メール tnu-volunteer@jnu.tnu.ac.jp
地域ボランティアプログラム①「松木日向緑地プログラム」メンバー

緑地新聞

7

2019年2月発行

初切は初雪と共に



一月十二日。今年最初の活動は、本学教養科目『多摩の里山学』を履修している学生たちと合同で行いました。

最初に、連携団体である「ひなた緑地遊学会」の方々から竹の種類の違いについての説明を受け、その後、夏の学生企画(参照:緑地新聞第二号)で使用する竹水鉄砲の材料となる竹の伐採を行いました。

私たちが日頃の活動で伐採している竹は、「孟宗竹(モウソウチク)」といい、中国から食用に輸入されてきた種です。節が一つしかなく、比較的太いものが多いとされています。今回伐採する「真竹」は日本固有の種で節が二つあり、細いのが特徴です!水鉄砲に向いている竹は、この「真竹」になります。これまで私は竹の種類についてあまりよく知らず、初めはそれぞ

れぞれの違いを見極めることができませんでした。徐々に見分けがつくようになりました。(※孟宗竹と真竹の由来は諸説あります)竹水鉄砲に適した真っ直ぐで適度な太さの真竹を探すのは大変です。しかし、その後の工程を考えるとわくわくしてきて、楽しみながら伐採することができました。途中で雪が降ってきて、初雪の中で竹を切るという珍しい体験もできました。ある程度、竹を切り倒した後、リヤカーに皆で手分けして竹を積み込み、大学奥地の倉庫へと運びました。この竹が、今後、地域交流へと活かされ、地域の子どもの笑顔へ繋がると今から次の夏が楽しみです!

最後は全体で集まり、感想を共有しました。里山学の履修者からは、「理論で竹の倒し方を理解していてもなかなか思った方向に倒れず、伐採の難しさを感じた」「普段あまり運動しないので、とても高い運動効果を感じた」といった声がありました。

今後ともプログラム以外の首都大生に緑地や竹の伐採の意義について理解を深めてもらえたら嬉しいです。



松木日向緑地プログラムとは?

首都大学東京の奥地に存在する松木日向緑地で毎年、九月から、月に一度程度、下記の社会課題の解決を目的に学生主体で竹林整備の活動を行っています。また、伐採した竹を活用して、近隣地域の方々と交流等へと役立てています。プログラムの中には、ボランティアの意義・社会の課題や背景を学ぶ事前学習・活動を多角的に振り返る事後学習があり、通常活動である、竹林整備と連動した内容・構成になっています。

無限大!!竹の可能性

～プログラムでの利活用例～



緑地川柳

筍と
まだ見ぬ春を
待ちわびて



編集後記 法学・三年 N
今日の活動も今後の地域交流へと生かしていきます。緑から縁を育む為に、残り少ない活動を一つ一つ大切にしていきたいです。

執筆後記 法学・二年 I
次回の体験会では、私たちプログラムメンバーが再び参加学生に切り方を教える側の立場になります。今回学んだことを忘れず、生かしていきたいです。

? 日本文学史クイズ ?

日本最古の物語とされる『竹取物語』に関連して、文学史の並び替え問題を用意しました! 成立順に正しく並び替えると私たちからのメッセージになります!

- | | | |
|----------|---------|----------|
| ミ. 古今和歌集 | ヲ. 沙石集 | ド. 宇津保物語 |
| イ. 曾根崎心中 | セ. おらが春 | タ. 太平記 |
| ニ. たけくらべ | ツ. 舞姫 | リ. 方丈記 |

参考: <http://www.7a.biglobe.ne.jp/~gakusyuu/bungaku/bungakumenu.htm> (最終アクセス:2019年1月31日)

社会的課題

- 環境: 里山 荒廃による生態系への悪影響
- 文化: 自然利用の技術や文化の伝承の断絶
- 地域: 少子高齢化に伴う世代間交流やコミュニティの希薄化
- 大学: 豊かな緑地資源への認知度の低さ

編集・発行

文章担当

首都大学東京ボランティアセンター

電話: 〇四二・六七七・一三五四

メール: tmu-volunteer@jmi.tmu.ac.jp

地域ボランティアプログラム①「松木日向緑地プログラム」メンバー

(南大沢キャンパス 一号館一階)

緑地新聞

8

2019年3月発行

ボランティアプログラム集大成



二月十五日(金)、竹林の整備と今年度の活動を振り返る「事後学習」を行った。午前中は、三グループに分かれ、ひたすら竹を切り倒した。何度やっても竹を倒していく時の爽快感は良い。一年を通してのプログラムも終盤となり、皆、だいぶ技術も身に付いてきたと思っていたが、枝木を切るのには苦労した。だが、

連携団体『ひなた緑地遊学会』の北出さんは、枝木を一発でどんどん切っており、熟練の技を感じた。コツは枝木を引っ張り、のこぎりの根本からスツ、と切るのだと教わった。また、今回、竹を切る中で面白いものを発見した。ポツチヤマである！（右図参照）ポツチヤマとは私たちの世代なら誰もが見つけているポケモンだ。誰がどうやって描き刻んだものか全くわからない。ミステリーである。

午後は、「事後学習」を行った。近隣小学校のコーディネーターの方や施設課の方、アドバイザーである加藤英寿先生、スポーツボランティアプログラムのリーダー学生等、多くの方々に来てくださった。「事後学習」では、活動の効果やプログラムを通じての自分の変化について考えた。多様な視点から活動を振り返ることで、自分が思っていた以上に



←少しづつ、でも確実に緑地が明るくなってきました

多方面で活動の成果があることが分かった。特に、竹水鉄砲を使った「サル山水合戦」では、保護者の大人が大学生とハイタッチしてはしゃぐくらいまで真剣に楽しんでくれていたというのを聞いて、驚いた。大人も子どもも真剣に取り組める機会を提供できるというのは、すごく良いなと思った。

次年度の活動に向けた改善案も出し合ったので、このボランティアプログラムはさらによりよいものへと進化していくだろう。
(作業療法学科・一年・M)

プログラムを終えて... ～学生の声～

- これまで大学周辺についてのことをあまり深く知りませんでしたでしたが、水鉄砲合戦や木工体験会を通じて、大学と周辺地域との関わりを感じることができました。また、地域との繋がりに自らの学部での専門知識が活かしたら、と思います。
- 交流を通じ、世代による考え方の違いを感じることで、高齢化や地域交流について、考えていく上で必要となる様々な視点をもてるようになったと思います。
- 活動でのやり取りや企画における話し合いの中で、目的を達成させるためには優先順位を考慮してしっかりと計画をしなければいけない、と感じました。
- 水鉄砲や木工工作といった利活用から、竹の無限の可能性を感じました。
- どうしても竹を上手く切れない回があり、改めて自然と向き合い、そして整備をしていくことの難しさを肌で感じました。
- 人の手入れが無くなることで、山にいる生物の多様性が損なわれてしまったり、竹が木々に必要な日光を遮ることで森の基盤が弱体化してしまう、といった里山が抱える課題について深く知ることができました。



緑地川柳

見上げれば
竹の隙間に
日向咲く

編集後記(物理・二年一)
活動に関わった人、皆で活動の効果を考えることは重要だなと思いました。特にサル山水合戦については楽しかったのは良かったのですが、果たしてそれが地域のニーズに沿ったものなのかということが何となく疑問でした。事後学習で小学校の方にありがたかったというところをおっしゃっていたのでその活動の効果を実感することができました。

編集発行
文章担当

首都大学東京ボランティアセンター (南大沢キャンパス 一号館一階)
電話 〇四二-六七七-一三五四 メール hu-volunteer@ujimu.ac.jp
地域ボランティアプログラム①「松木日向緑地プログラム」メンバー 健康福祉学部一年・M

緑地新聞

9

2019年3月発行

里山保全ボランティア／首都大で竹を切ろう

【里山保全体験会】

二月二十二日(金)に、松木日向緑地での里山保全ボランティア体験会を行いました。体験会の目的は、(一)松木日向緑地を知ってもらう(二)体験会を通じて里山保全に関心を持ってもらうきっかけをつくるの二点です。学部生、大学院生、教職員と様々な所属の4名が参加してくださいました。体験会では、はじめに一時間ほど、緑地の観察と竹の伐採を体験していただきました。

次に、教室で緑地・里山について学習し、松木日向緑地をより良くする取り組みについてディスカッションしました。

【緑地整備】

竹の伐採体験では、はじめに、「管理されている竹林」と「あえて手を加えていない竹林」を観察してもらいました。

「首都大にこんな場所があったのか」と驚く参加者。一年目のメンバーが一年間の活動の経験を踏まえ、竹林管理の意義を説明しました。

管理の必要性を知ったところで、実際に竹を伐採します。プログラムメンバーによるサポートのもと、協力して竹を伐採しました。「予想以上の運動だった」という声もあり、作業後は汗だくでした。



協力して竹を切る参加者とプログラムメンバー

【松木日向緑地をより良くするには?】

竹林管理作業の後には、体験会参加者とプログラムメンバーで、松木日向緑地をより良くする取り組みについて、グループディスカッションをしました。本プログラムでは活動を「やりっ放し」にせず、「事前学習」や「事後学習」などで、緑地・里山について問題点や自分の考えを互いに話し合い、共有してきました。今回、プログラムで行っているような学習を、参加者にも体験してもらいました。今回のディスカッションでは、体験会参加者による、今までにはなかったような視点からの意見や今回の体験の感想を聴くことができ、特に充実していたと感じました。感想の一例としては、「今回の体験会をきっかけに四月のたけのこ掘り活動にも参加しようと思った」などがあり、緑地・里山だけでなく、他のボランティア活動についても関心をもっていたことができました。

【次年度に向けて】

このような体験会を通して、さらに活動の輪を広げ、規模の拡大を図ることができれば、さらに本プログラムの意義が高まるでしょう。プログラムメンバーは、この一年間で自分たちが行ってきた活動の内容・大切さを再確認することができました。新年度に向けた新たな取り組みについても各々が考える良い機会になったと思います。



グループディスカッションの様子

緑地川柳

竹林に
したたる汗は
筍へ

編集後記 生命・修士二年・K

ボランティアプログラムも三年目を迎え、開始当初は考えられなかったような取組もできるようになりました。取組は変化しても、松木日向緑地が親しみやすい場所であり続けて欲しいです。

編集・発行

首都大学東京ボランティアセンター(南大沢キャンパス 一号館一階)

電話 〇四二一六七七一三五四 メール tmu-volunteer@jmi.tmu.ac.jp

文章担当

地域ボランティアプログラム①「松木日向緑地プログラム」メンバー

登場人物

さくらば ゆか

咲良葉 縁楓

ふかみどり たけし

深緑 竹志

理系の1年生。通学途中によく緑地の近くを通るが、このプログラムのことはよく知らない。好きな微生物はシアノバクテリア

文系の3年生。長いこと、この松木日向緑地プログラムの活動に関わっている。映画「エンドゲーム」のライター。



咲良葉: よく緑地の近くは通っていますが、こういった活動があるのは正直、知らなかったですね。そもそも、なんで竹を切るんですか？

深緑: うーん、端的に言ってしまえば、生態系を守る為かな。竹の成長は著しくてね。他の樹木へ侵食したり、本来入るはずの日光を妨げたりしているんだ。

咲良葉: そうなんですね！そして、その切った竹はこの冊子を見る限り、色んなところで使われていますね。

深緑: そうだね、『緑地新聞』の1号や2号、7号でそのことに触れてあるね。まさしく「緑から縁を」だと思う。

咲良葉: どういうことですか？

深緑: 里山保全活動、即ち縁、という部分から地域のつながり、即ち縁へと結びつけるこのプログラムのことを個人的にそんなふうに表示しているんだ。

咲良葉: なんか、結構、印象に残るフレーズですね、覚えておきます。よく見たらこの冊子のいたるところに書かれていますね！

深緑: 気に入ってね、我ながら。笑

咲良葉: なるほど。笑笑

あ、あと、もう一つ質問なのですが、実際、竹を倒すのって結構大変なんじゃないですか？筋トレとかした方がいいんですかね...？

深緑: いやいやそこまでしなくても。笑 個人差はもちろんあるけど、あまり重たくはないかな。もちろん、色々不安なことはあるかもしれないけれど、ひなた緑地遊学会という地域の連携団体の方々から竹の切り方や道具の扱い方について、しっかりと教えてもらえるよ。

咲良葉: 近くで見てくれる人がいるのは安心できますね。ホッとしました。

深緑: 他にも2、3年続けているサポーターやリーダーの学生もいるからそこは安心していいよ！竹を切る伝統的な技術もそうだけど、そもそも自然と触れ合うといった文化も後の世代に、いろいろな企画を通じて伝えていくことが自分たち、大学生の役割なのかと思っているよ。

咲良葉: なるほど...

興味深いお話を聞くことができ、今日は本当によかったです。今後の活動への参加を検討してみますね！

深緑: それはよかった！緑地にはいわゆる、SNS映えするスポットがたくさんあるからね。友達にもぜひ、お伝えあれ。

咲良葉: 了解しました！

※登場人物や内容はフィクションです



松木日向緑地プログラムのおすすめポイントは？



竹を切るだけじゃない楽しみがあります。
子どもが好きな方、色々な世代の人と交流したい方にお勧めです！ 法学 2年



色々な人と交流できます！子どもが好きな人にお勧め！
竹を切る機会なんてそうそうない！ 生命科学 2年



竹林整備だけではなく、地域の人とも交流できるところが面白いです。 システムデザイン 1年



ふだんの日常の中では関わるできない地域の方々と交流できること。そして、自分たちの整備活動は、目に見える形(日光)で現れるので、達成感を感じます！ 法学 3年



タケノコ掘りなど、自然の魅力が松木日向緑地にはたくさんあります！ 都市環境 1年



竹を倒した時の達成感！！！！



様々なバックグラウンドがある人達が活動に参加しており、
地域の人々の技術を学ぶことができる。 生命科学 M2年



子どもたちと楽しく水鉄砲をして遊べること！！ 都市環境 1年



自分の予定の合うときに参加でき、他学部・学科の人、地域の人など、たくさんの
人との交流ができる！ 都市環境 1年



とにかく楽しい！！！！^^ 物理 2年



色々な人と交流できる。自分の視野を広げるよい機会。
竹を切るのは気持ちいい！ 人文社会 1年



大学の緑地を舞台に、環境整備・地域交流・自然の遊びなど、多様な観点から目的を考えて
活動できます。新生活に期待を膨らませている人にも、電車の人混みや授業・課題に飽き飽き
してリフレッシュしたい人にもおすすめします。 電気電子工学 4年



そうだ、緑地へ行こう。

後書き

この冊子が発行される頃には、本冊子収録の『緑地新聞』を企画してから、1年以上経つことになります。初めて自分で編集を担当した1号の粗削り加減は、2号との比較で一目瞭然なので、なんだか、妙に感慨深いです。

まさに0から始まり、そして、多くの人に支えられ、出来上がりました。個人的には緑地談話の人物名に、こだわりがあります。この冊子が1人でも多くの人の緑地に対する関心へとつながるきっかけになれば幸いです。ここまで読んで下さり、ありがとうございました！！

(都市教養学部 都市教養学科 法学系 4年 リーダー N)

今回、『緑地新聞』の編纂に関わらせていただき、自分たちの活動を文字でまとめて振り返ることの大切さを実感しました。松木日向緑地という一つのフィールドで続けていく活動だからこそ、1つ1つの活動の積み重ねを確認しながら、時には変化しつつ継続していくことが大事なのだらうと感じます。また、首都大生にもっと緑地の存在を知ってもらえるように、これからも広報を続けていきたいと思います。

(都市教養学部 都市教養学科 法学系 3年 サポーター S)

『緑地新聞』

松木日向緑地プログラムの活動紹介～溢れる緑からあまねく縁を～

初 版 2019年6月 発行

編集・発行 首都大学東京ボランティアセンター (南大沢キャンパス 1号館1階)
電話:042-677-1354 メール:tmu-volunteer@jmj.tmu.ac.jp
Twitter: @tmu_volunteer #松木日向緑地 #緑地新聞
Facebookもやっています！

文章担当 2018年度 地域ボランティアプログラム「松木日向緑地プログラム」メンバー